

NEWSLETTER 27

GLOBAL MAPPING

持続可能な開発に関する世界首脳会議における活動とその成果

政春 尋志
ISCGM事務局



持続可能な開発に関する世界首脳会議は、2002年8月26日～9月4日まで、南アフリカ、ヨハネスブルグにおいて開催されました。このサミットは、1992年にリオデジャネイロで開催されたいわゆるアース・サミットから10年を経て、アジェンダ21の実施を再検討し、持続可能な開発に向けた具体的な計画を策定するために行われました。この会議は、100人を超す国家の長をはじめ、22,000名が参加する最も大きな国際会議のひとつとなりました。

地球地図は、アース・サミットの開催と同じ1992年に、地図分野からの地球環境保護への貢献として提唱されました。このサミットは、持続可能な開発には全球で一貫性のある地理情報が重要であることを宣伝する絶好の機会であり、ISCGMはサミットの準備段階から積極的に参加しました。ニューズレターの前号で既報のとおり、「地球地図」という言葉をWSSDの実施計画に盛り込むことは、WSSDの第4回準備会合における国連加盟国間の交渉で合意されました。そのため、地球地図を外交官よりも、幅広く一般の人々に宣伝することに焦点をあてることができまし

た。

ISCGMは、WSSDにおいて以下のような活動を行いました。

1. ウブントゥ村の日本パビリオンにおける展示
日本パビリオンに地球地図のブースを設けポスターと画像を展示しました。また、地球地図のパンフレットや、「地球地図パートナーシップ」シンポジウムへの参加の呼びかけなどの広報資料も配布しました。大型のポスターのうち、1枚が地球地図の提携機関の紹介に充てられました。パートナーシップはWSSDにおけるキーワードです。GSDIとGISD(持続可能な開発のための地理情報)イニシアティヴとパンフレットを交換し、これらのパンフレットも、地球地図ブースを訪れた人々に配布しました。

2. 地球地図パートナーシップ・シンポジウム
「地球地図パートナーシップ」と題するシンポジウムが、9月3日に日本パビリオンのセミナー室において開催されました。はじめに、佐藤静雄国土交通省副大臣の基調演説が行われました。佐藤副大臣は、地球環境問題の重要性と、地球地図の必要性と有用性を強調しました。また、副大臣は地球地図への参加をさらに促進することも呼びかけました。その後、7名のパネリストによる地球地図関係の様々な課題についての発表がありました。参加のパネリストは、永山透氏(国土交通省)、D. クラーク氏(南アフリカ測量地図局)、M. コネチニー博士(国際地図学協会)、大沢右二氏(宇宙開発事業団)、J. ケルメリス博士(米国地質調査所)及び秋山實(ISCGM)でした(発表順)。発表の後、会場との活発な討議が行われました。シンポジウムの最中に、小泉純一郎総理大臣が会

場に立ち寄られました。

3. その他の活動

業際間の問題を扱うサミットの本会議において、朝海大使は地球観測と地球地図の重要性について述べ、地球地図の促進を盛り込む小泉イニシアティブを紹介しました。

ISCGMの秋山事務局長は、会合において、地球地図の発表を行い、タイプ2パートナーシップ・イニシアティブを紹介しました。

これらの活動の結果、WSSDにおいて、主に以下の業績が得られました。

1. 「地球地図」がWSSD実施計画に盛り込まれました。

厳しい交渉の後、実施計画が合意されました。「地球地図」がこの文書に盛り込まれたことは、国連に加盟するすべての国家や政府が、最も高いレベルでこれを促進することに合意、約束したことを意味します。これは、地理情報関係の活動促進に携わるすべての人々の励みとなるでしょう。最終文書は以下のとおりです。

119. septies あらゆるレベルにおける以下の緊急の行動を含め、環境へのインパクト、土地利用及び土地利用の変化に関する高精度なデータを収集するため、衛星リモートセンシング、地球地図、地理情報システムを含む地球観測技術の開発と幅広い利用を推進する。

(a) キャパシティ・ビルディングの必要性と地上観測、衛星リモートセンシング、その他の情報源からのデータをすべての国々の間で共有することの必要性に鑑み、グローバルな観測システムと研究プログラムの間における統合地球観測のための協力と協調を強化すること。

(b) 地球観測データの活発な交換を含む、貴重なデータの共有を可能とする情報システムを開発すること。

(c) 地球地図のためのイニシアティブ

とパートナーシップを促進すること。

119. octies 各国、特に開発途上国の次のような努力を支援する。

(a) 正確な、長期的で、一貫し、かつ信頼性の高いデータを収集すること。

(b) データ収集及び地上観測の一層の改善のため、衛星リモートセンシング技術を利用すること。

(c) 衛星リモートセンシング、衛星測位、地図作成及び地理情報システムの技術を利用することにより、地理情報にアクセスし、それを検索し、利用すること。

(項目番号は暫定です。)

2. 「地球地図」は、国連のタイプ2パートナーシップ・イニシアティブに登録されました。

ISCGMでは、地球地図イニシアティブをタイプ2イニシアティブとして提出し、国連により登録されました。タイプ2は交渉を伴わない文書ですが、各機関は、持続可能な開発のための行動に最大限の努力を払います。一方、タイプ1文書は国連加盟国間での交渉が必要であり、合意されます。タイプ1文書は、持続可能な開発に関するヨハネスブルグ宣言(政治宣言)及びWSSD実施計画です。ここに登録したことにより、地球地図イニシアティブの内容と目標は、国連文書の中で詳細に述べられます。

これらの実績をふまえ、私たちは、2007年までに全球のデータ整備を完了させるよう、パートナーシップを強化し、地球地図への参加を増大させるよう努力する所存です。



第9回 ISCGM 会合の報告

秋山 實
ISCGM 事務局長



第9回地球地図国際運営委員会会合 (ISCGM9) は、2002年9月20日、第6回全地球空間データ基盤会議 (GSDI6) に引き続き、ハンガリー、ブダペストの農業地域開発省 (MARD) において開催されました。本会合は、MARD 土地地図局が主催しました。35名の委員、顧問及びオブザーバーが参加しました。

本会合は、MARD 行政副大臣のジュラ・メザロス博士による歓迎の辞で開会しました。続いて ISCGM は、委員長選考委員会により、2002年5月16日に選任され、会合において口答評決による圧倒的多数で任期3年のポストに再選された新委員長の、カナダ、オタワのカールトン大学の D. R. F. テーラー博士を歓迎しました。

会合では、ISCGM が WSSD に至る準備段階を通して様々な活動を行い、地球地図と GIS が持続可能な開発にとって重要であることを宣伝し、そのため地球地図が WSSD のタイプ1とタイプ2の両文書に盛り込まれることとなった ISCGM の意義深い功績に謝意を表しました。また、前回の会合以来、参加国数のかなりの増加への貢献となった、EuroGeographics の EuroGlobalMap プロジェクトを通しての地球地図への参加の決定及び ESRI GM/GSDI グラント・プログラムに謝意を表しました。

第2フェーズに関する討議では、ラスター・レーヤ整備を他の同類のイニシアティブと共同で行うために、ワーキング・グループ4を設立することに合意しました。また、ISO/TC211の最近

の進歩を取り入れ、相互運用のための利用者の要望と要求にかなう地球地図仕様を再検討するために、ワーキング・グループ2を復活させることに合意しました。地球地図の商業利用のためのデータ政策に関する討議も以下のように合意しました。(a) ISCGM では、各国のデータ政策と各国の意向を受け入れること。(b) 著作権の問題は、著作権の保有者により取り扱われること。(c) 事務局は、それぞれの地球地図データのデータ・ダウンロード・サイトに著作権保有者の名称及び連絡先を明示すること。

ISCGM 規約の改正が行われ、委員長の任期を3年で、3年経過後の委員会会合までとし、その時点で委員長の再選は差し支えないこととしました。D. R. F. テーラー教授は、口答評決による圧倒的多数で、3年の任期に選任されました。ISCGM 規約の再検討を次回会合の前に再度行うこととし、変更の提案はその際に評決されます。

会合では、2003年7月14日の週に沖縄で開催予定の国連アジア太平洋地域地図会議に先立ち、2003年7月12及び13日、沖縄において地球地図フォーラム2003を開催するという事務局の提案を受理しました。第10回 ISCGM 会合は、英国、オードナンス・サーベイの主催により、2003年7月25日、ケンブリッジ会議とあわせて開催されます。また、第11回 ISCGM 会合はインド、バンガロールにおいて、インド測量局の主催により、2004年2月2日の週に行われる予定の第7回 GSDI 会議とあわせて開催されます。



GSDI 6 会議
グローバルからローカルへ
- 世界の4分の1の国々がGSDI 6に参加 -
イアン・マッサー教授
EUROGI 会長



世界の4分の1の国々が、2002年9月16日～19日にブダペストで開催された第6回全地球空間データ基盤会議に参加しました。過去最高の51カ国、225名の参加者が本会議のテーマである、「グローバルからローカルへ」に関する多岐にわたる論題について、80以上の発表に耳を傾けました。これらの講演には、ハンガリーの新任のカルマン・コバクス情報通信大臣によるハンガリーの国家空間データ基盤に関する基調講演、公共分野の情報のグローバルな利用と再利用を奨励する、英国政府出版局監督官、キャロル・チューロによる英国政府のイニシアティブの概要及び欧州委員会、環境と発展に関する研究プログラム・ディレクター、クリスチャン・ペーターマンによるヨーロッパの環境研究の概要等がありました。

本会議は、全地球空間データ基盤の組織整備の転換点です。GSDI組織は、世界のあらゆる地域の国際機関、地域機関及び国家機関の代表からなる非公式な運営委員会が中心となり6年間運営した後、2002年8月に正式に非営利団体として法人化されました。現在の理事会は、本組織の過去、現在と次期委員長と共に、2つの主要ワーキング・グループの座長及び本組織の現在の事務局により構成されています。本理事会は、会議参加者から、2004年2月のバンガロールでの次回会議までに組織を完全に機能させるよう、

戦略計画策定の課題を託されています。
 本会議の主な要点は以下のとおりです。

- 人材育成イニシアティブ。前回の会議で発表された900万ドルのESRI Global Map/GSDI グラント・プログラムの支援により、世界各地で100件の人材育成プロジェクトが進行中であることが報告された。
 また、Intergraph社がGSDI6において、新規の550万ドルのOpen Interoperability グラント・プログラムを発表した。
- 地球地図イニシアティブの重要性について、国際的な認識が高まっていること。これは持続可能な開発に関する世界首脳会議の実施計画の勧告に盛り込まれたことで、特に明らかである。
- 欧州連合の新しいイニシアティブである公共分野の情報の利用促進及びヨーロッパ空間データ基盤整備の促進について。

本会議の閉会式において、会長の任期を満了するコロンビア地理院(IGAC)のサンティアゴ・ボレロが、会長を引き継ぐヨーロッパ地理情報全体機関(EUROGI)会長のイアン・マッサー教授を歓迎しました。インド宇宙研究機構(ISRO)のムクンド・ラオが次期会長のポストを引き継ぎました。



ケニア、ナイロビにおける第1回地球地図セミナー

永山 透

地球地図パートナーシップ・プロジェクト(GMPP) チーフ・コーディネーター
国土交通省

第1回地球地図セミナーは、2002年8月19日～23日まで、ケニアのナイロビで開催されました。アフリカの18カ国から20名の専門家が地球地図の政策、技術面とその促進について学ぶために本セミナーに参加しました。本セミナーは、アフリカ諸国に地球地図と空間データ・イニシアティブをさらに促進するための重要なステップであると評価されました。

本セミナーは、「アフリカの状況における地球地図の促進」と題する一日のオープン・ワークショップで始まり、本ワークショップは、第1回地球地図セミナーを記念するもので、アフリカにおける地球地図の促進、地球地図プロジェクトと関係イニシアティブ間のパートナーシップの強化及びアフリカにおける持続可能な開発に対するこれらのイニシアティブの貢献に関し、意見交換と見解の共有を目的として開催されました。

ケニア測量地図専門学校校長のジェームズ・ソゴー氏の司会により、本セミナーでは以下の発表が行われました。

- 地球地図プロジェクトの概要及び現状 (大西純夫氏、ISCGM)
- アフリカにおける地球地図プロジェクトの実施 (ハガイ・ニャポラ氏、ケニア測量局)
- 開発のための資源地図地域センター(RCMRD)の活動 (ウシルバー・オティチロ博士、RCMRD)
- アフリカにおけるSDI-概念と要素 (オティチロ博士、RCMRD、ケート・ランス博士、USGSの代理発表)
- 地理情報分野におけるUNEPの活動 (ティモ・マウコネン氏、国連環境計画)
- アフリカバー・プロジェクトの整備 (ルカ・アリノヴィ氏、食糧農業機関)
- 地球地図パートナーシップ・プロジェクトの紹介及び持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)へのインプット (永山透、国土交通省)

セミナーの半ばで、3日半にわたり、セミナー参加者は、地理情報システムの概要、Arcview

GISソフトウェアの基本操作及びそのソフトを使用する地球地図データの処理について講義を受けました。講義に続き、参加者は、各人に提供されたPCを使用しGISソフト操作及びデータ処理の実習を行いました。

最後に、セミナーでは、国家レベルの空間データ基盤(SDI)の設立及び地球地図の利用のケース・スタディーに関する発表、それに続く討議など、地球地図をさらに促進するための半日のセッションが行われました。セミナーは、終了証書授与式で閉会しました。

セミナーをとおり、参加者は概ね以下の認識を共有しました。

- 本セミナーは、地理情報技術をアフリカ諸国へ技術移転するための良い機会となった。
- 地球地図の政治的、技術的な内容の両面が、バランス良く取り上げられた。
- 地球地図整備は開発途上国に二重の成果をもたらす。1つは地理情報技術の人材育成であり、他の1つは全地球空間データ基盤を確立するための世界のコミュニティへの貢献である。
- 参加国間での作業の重複を避けるために、FAO/UNEPアフリカバー・プロジェクトなど、姉妹関係のイニシアティブとのパートナーシップの強化が検討されるべきである。
- 次回のセミナーの開催地は、おそらく、地球地図プロジェクトへの関わりが十分でない西アフリカ地域になる予定である。

国土交通省(MLIT)、地球地図国際運営委員会(ISCGM)、開発のための資源地図地域センター(RCMRD)が共同で、ケニア測量局(SOK)、ケニア測量地図専門学校(KISM)及び国際協力事業団(JICA)の協力によりセミナーを運営しました。

以下のアフリカの18カ国が本セミナーに参加しました。ベナン、ボツワナ、コンゴ、エチオピア、ケニア、レソト、リベリア、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、ナミビア、セネガル、セイシェル、スワジランド、タンザニア、ウガンダ、ザンビア及びジンバブエ。

地球地図フォーラム2003 沖縄(GMF03)

- 地球地図データの利用例と、地球規模の地理情報を利用した研究等に関する論文募集 -

1992年、アジェンダ21の採択を受けて提唱された「地球地図構想」は提唱から10年を経過し、その間、様々な国際会議や国連等を通じて、世界中に認識されるようになり、地球地図プロジェクトへの参加国は130に迫るまでになっています。また、2002年に、アジェンダ21の採択から10年を記念して開催されたWSSDでは、合意採択された「実施計画」文書の中に、地球地図を地球環境の監視手段として位置づけ、国際的な共同事業として推進していくことが明記され、地球地図は地球環境問題等の解決のための手段として一層重要性が高まったといえます。

地球地図フォーラムは、1997年に地球地図フォーラム'97 in 岐阜が、1998年に地球地図

フォーラム'98が米国スーフオールズで、2000年には地球地図第1版の完成を記念して、地球地図フォーラム2000 広島が開催され、地球環境問題や、地球規模の地理情報の利用等に関して多数の研究発表がされ成功を収め、地球地図フォーラムとしては今回で4回目の開催となります。現在では、地球地図データの公表も12ヶ国を数えるまでになり、地球地図を利用した研究も実例がどんどん増えている状況にあります。そこで、今回は、地球地図データを使用した様々な解析例を中心に、地球規模の地理情報を利用した研究等に関する発表を募集し、地球地図フォーラムを開催する次第です。

地球地図の参加状況と新たに公開されたデータ

現在、地球地図プロジェクトに、126カ国・地域が参加しています。2002年6月25日以降に参加した機関(国)は、土地情報センター(ベリーズ)、国家地理・測地局(モザンビーク)、土地・測量部(ドミニカ)、土地・測量局(グレナダ)、測量地図課(セントルシア)、土地・測量部(セントビンセ

ント及びグラナディーン諸島)、土地・測量部(トリニダード・トバゴ)、国立地理院(コスタリカ)及びインド測量局(インド)です。2002年9月18日に公開した地球地図ケニアを含め、12カ国のデータがインターネット上で公開されています。

お詫び：英語版グローバル・マッピング・ニュースレター第26号5ページに掲載されたユーロ・グローバルマップを通して参加するユーロ・ジオグラフィクス加盟国の一覧表に、Bundesamt für Kartographie und Geodäsie (BKG)が漏れておりました。お詫びして訂正いたします。

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2002年

9月29日～10月30日、カナダ、モントリオール
CODATA2002 会議

10月28日～30日、フィリピン
PCGIAP 理事会会合

11月11日～15日、タイ、バンコク
国連災害管理のための宇宙技術に関する地域
ワークショップ

11月14日～15日、韓国、慶州
第15回 ISO/TC211 本会議

2003年

1月30日～31日、ベルギー、ブリュッセル
開発途上国のための持続可能な農業にむけ
て：生命科学及びバイオテクノロジーからの

選択

5月22日～23日、スイス
第16回 ISO/TC211 本会議

7月12日～14日、日本、沖縄
地球地図フォーラム 2003 in 沖縄

7月14日～18日、日本、沖縄
第16回国連アジア太平洋地域地図会議

7月20日～25日、英国、ケンブリッジ
ケンブリッジ会議

7月25日、英国、ケンブリッジ
第10回 ISCGM 会合

8月10日～16日、南アフリカ、ダーバン
第21回国際地図学協会会議

10月または11月、ドイツ
第17回 ISO/TC211 本会議

編集、発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

ホームページ：<http://www.iscgm.org/>

E-mail：sec@iscgm.org